

# たけのうち便り Vol.49

平成27年3月19日発行

いつもお買い上げいただきありがとうございます。お米のほか季節や地域の情報をお届けいたします。

## ～お米の歴史Ⅲ～

今回は、昔と今の米作りの違いを紹介します。

古代



稲作が伝わってきた頃は、種もみを直接水田に蒔き、稲の穂先をだけを石包丁で刈り取っていました。堅杵(たてきね)・堅臼(たてうす)を使って脱穀を行っていました。

## 明治時代～昭和初期

苗は田んぼの片すみに育てる場所を作り(苗代田(なわしろだ)),そこで育てていました。農作業で牛馬が使われるようになったのは明治時代になってから。田植えは、田んぼに縄を張り、それを目印に行っていました。稲刈りももちろん手作業。学校には「田植え休み・稲刈り休み」があったようです。一家総出で行っていたんですね。脱穀には、逆V字型の針金を埋め込んである人力で回転させる(足踏み脱穀機)が使われていました。その後(ハーベスター)という自動脱穀機が登場します。



苗づくり

代かき

田植え

稲刈り・脱穀

現代



ビニールハウスなどの施設で、箱に種をまいて電気等で温めて育てるのが主流です。



トラクターは昭和40年頃に登場しました。



昭和45年頃から田植え機が使われるようになり、農作業がずいぶん楽になりました。



稲刈りから脱穀までをコンバインで行っています。山間部では、農作業の一部を今でも手作業で行っています。



## 春の田んぼ

3月に入り、鴨川ではあちらこちらでトラクターの音が響き渡るようになりました。農作業が本格的に始まっています。



3月2日 撮影

こちらの田んぼでは、田おこし・くろ塗りが終わって水がはられています。水をはることで土の中は酸欠状態になり、有害生物が死滅して作物がよく育つ土壌に保たれるのです。山間部の小さな田では機械が入らず、手で行わなければならない作業もあります。

## 自然の恵み♪

3月になり、季節は春...とは言ってもまだ寒い日もあります。そんな中、春のごちそう達が顔を出し始めました。春の山菜はアクの強いものがほとんど。この苦味が無病息災に欠かせないものようです。寒い冬を越して出てきた自然の恵みに感謝です。



裏面もご覧ください

★当店で取り扱っているお米は安全なお米です。安心してお召し上がり下さい★

竹ノ内米店《本社》千葉県富津市山中1254 《鴨川店》千葉県鴨川市池田327-1

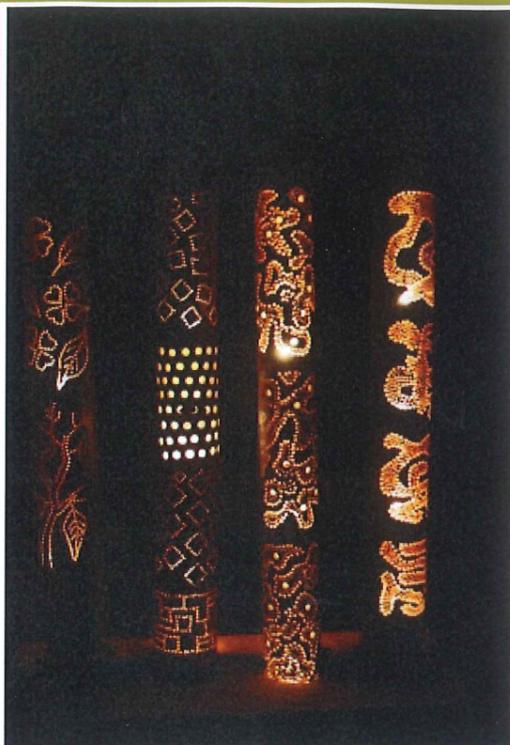
お米のご注文は、こちらまで→ フリーダイヤル 0120-07-0334

インターネット販売 <http://www.takenouchikometen.com> ホームページもご覧ください。

# たけのうち便り

## 第8回 竹灯籠まつり

真冬に戻ったような陽気だった3月7日、頼朝桜まつりが行われている鋸南町の保田川周辺にて(竹灯籠まつり)が行われました。ろうそくの火が灯籠に灯されると、竹に穴をあけて描かれた絵が浮かび上がり、とてもきれい！ライブ演奏もあり、寒い中たくさんの来場者で賑わっていました。竹灯籠の明かりが頼朝桜をやさしく照らしていました。



竹灯籠まつり入口の橋。素敵なイルミネーションがお出迎え♪



2000個の竹灯籠の明かりに照らされた頼朝桜。幻想的です。

地元の小学生の作った灯籠も並んでいました。



この「たけのうち便り」に度々登場する佐久間ダムでは、水仙が終わり2月後半から紅白の梅の花や頼朝桜が一気に開花。一足早い春を感じに大勢の方々が訪れていました。頼朝桜はもう終わりですが、これからソメイヨシノやしだれ桜・八重桜が順に咲き始めます。4月5日にはイベントも予定されています。

撮影 2月27日

※鋸南町では、源頼朝が戦に敗れ竜島海岸に上陸し再起をはかったという史実にちなみ、河津桜を頼朝桜と呼んでいます。

